「広津よ永遠に」シリーズその 15　2013.11.18

「広津の石碑・石仏・石像など」　その　4

　平畑、六地蔵地区にある「石（巾部の右に童を書く字で「せきとうがた」と振り仮名がつけられています。）　型　六地蔵尊」には次のような説明文が記されています。
「初代・・・江戸期　　改築・・・昭和　　宝珠と笠は自然石　バランスが美しい。」
中央には６体の地蔵様がある。左には１７名の寄付志名が記されている。一金　十円～一円。右には六地蔵尊改築記念　昭和拾　年八月竣工　　平畑郷志久保中と書かれている。
すぐ隣にはかって万屋として栄えた「小林商店」があり（今は廃業したが、塩・酒・たばこ・切手などと書かれた看板が残っている）広津地区唯一の郵便ポストが置かれている。
その前の町営バスのバス停は「六地蔵」名です。

六地蔵全景

六地蔵

六地蔵裏から

六地蔵尊

寄付者名

寄付者名の裏側

六地蔵の町寄り手前の「栂の尾地区」には立派で大きく目立つ「中山晴美翁頌徳碑」があります。県道端なので目につきます。　「勲五等瑞宝章　日本専売公社　総裁　長岡　實書」と書かれています。裏には「徳頌　明治４０年３月１６日　本県たばこ産業発祥ノ地である北安曇郡池田町広津に生ル。昭和５９年８月吉日　頌徳碑建立委員名が委員長～委員まで列記されています。」

中山晴美翁 頌徳碑

頌徳碑

頌徳碑の裏側

たばこ一筋

又すぐ隣にも石碑があり、表面・裏面共「頌徳碑建立協賛者御芳名」が全国・全県下の住所・氏名・寄付金額が所狭しと書かれている。最後に　中山　晴美　建之　と書かれています。葉タバコの栽培等に尽力された業績の大きさが分かります。

全景です

農家にとっても専売公社の契約栽培であったので安定した農業所得が得られて良かったと思います。私も大糸線信濃松川駅（松川村・池田町の玄関駅）に勤務していて、中山晴美さんは何度も拝見して知っていました。（時々電車を利用したので、たばこ関係の大物としての理解だった）当時両村・町にはたばこ栽培農地が目についた。

禁煙運動のせいか？近年はまったく栽培地を目にしなくなったが。広津では一番業績のあった、有名人だと思います。

先日息子さんから「たばこ一筋」（平成４年３月、中山晴美翁を囲む会発行）の本を頂きました。　「はじめに」　には次のように書かれています。昭和５９年８月１日。快晴。長野県北安曇郡池田町広津地区。　西側は清流高瀬川を眼下に、北アルプスの槍ヶ岳、常念岳、穂高岳等々の名峰を眺望でき、東側は屈曲する境界をもって接する東筑摩郡生坂村の起伏に富んだ段丘が一望できる壮観な高台。この地が長野県たばこ耕作組合長・中山晴美翁の生地であり、定住の地である。この壮観な高台の一角に、農業・とりわけ葉たばこ生産事業に生涯を傾注した翁の頌徳碑が建立され、この佳き日にその除幕式が長野県庁、関係市町村、たばこ耕作団体、日本専売公社などの関係者が多数参列した中、厳粛、盛大に挙行された。誠に感慨深いものである。その感動から早七年余が経過したが、折居常務の提案により、中山翁の農業・葉たばこに懸けた情熱や足跡を中山翁を囲む会の時に聞いた話を中心に編纂し、後世に残そうということになり、翁との会話をその言葉として本書に纏めてみた。肝心な所での言葉の綾もあり、拙稿でお叱りもあろうかと思われるが一生懸命に纏めたものである。翁のお人柄を汲みとってお許しいただければ幸甚である。

平成四年三月吉日

中山晴美翁を囲む会編集委員　　松坂　　健
宮本　　壱栄
原　　克彦

むすびには千野均会長が次のように書いています。「この度、中山晴美翁のたばこ耕作一筋に生きた足跡を編集発行できますことを心からお祝い申し上げます。申すまでもなく、翁は戦前、戦後を通じ葉たばこ産地の育成にご尽力をいただきました。その功績、ご苦労は計り知れず現在も長野県たばこ耕作組合長としてご活躍をされているお姿を拝見するに何と気丈な方かと、敬服をしております。本書は翁の足跡を後世に残そうということで、親交を深めている仲間達が聞いたことを記録にとどめ、編集したものであり、編集に当たった委員諸兄に厚くお礼を申し上げます。どうぞ翁にはこんご共、益々健康に留意され引き続き私共をご指導下さいますことをお約束願ってむすびといたします。」

生まれ育った環境、青年会・青年団時代、結婚、村会議員、農協の専務、たばことの出会い、頌徳碑について等々、昔の時代のエピソードや努力、活躍などが広範囲に書かれた読み応えのある本でした。